

# 山 大 医 学 部 病 院 だ よ り

Yamaguchi University  
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

NEWS



山口大学教育学部の学生が制作したホスピタルアートを設置しました

アレルギー県民講演会開催

山口大学医学部に「SDS支援システム開発講座」を設置

12  
2022

VOL.257

# 山口大学医学部附属病院アレルギーセンター開設記念講演 アレルギー県民講演会 開催



国立病院機構福岡病院 西間三馨名誉院長

令和4年8月5日(金) 山口大学医学部附属病院A棟1階オーデイトリウムにて、アレルギー県民講演会を開催しました。この講演会は令和4年4月に本院に新たにアレルギーセンターが設置されたことを記念して開催され、当日は、新型コロナウイルス感染拡大のなかではありましたが、多くの方にご来場いただきました。

講演は、国立病院機構福岡病院 西間三馨名誉院長による「アレルギー疾患対策基本法における県拠点病院の役割と山口県のアレルギー疾患有症率の推移」についての基調講演に加え、本院の呼吸器・感染症内科 山路義和医師による「みんなで学び、みんなで取り組む喘息治療」、まかたこどもアレルギークリニック 真方浩行院長による「子どもの食物アレルギー〜何に気をつけて生活したらいいの〜」の計3講演を行いました。

西間名誉院長の講演では県内のアレルギーの現状についての説明があり、確かな医療提供体制や情報提供がされることになりました。

最近の気候の変化や私たちの生活環境の変化も考えられますが、耳鼻科、皮膚科、眼科といった診療科目に対応したアレルギーを専門とする医師が極端に少ないことも問題として挙げられました。

真方院長は、いま増加している食物アレルギーについてわかりやすく解説されました。食物アレルギーは食物に含まれるタンパク質が要因で、どの食物のタンパク質がアレルゲンとなるかは、人によってさまざまであるため、明確な原因を特定することが困難であり、検査・治療が長期にわたることもあります。そのため、除去食など環境を整えることも重要なことでもあると考えられます。患者さんに寄り添い、疾患を多角的に診療することができる専門医の充実が急務であることが明確な課題であることなど今後の課題についても報告されました。

講演会の動画は、申込者限定にて配信しています。

お申込み方法の詳細は、『やまぐちアレルギーポータル (ymg-allergy.jp)』を「確認」してください。



## 山口大学医学部附属病院アレルギーセンターとは・・・

本院は令和2年に県内唯一のアレルギー疾患医療拠点病院に認定されました。令和4年アレルギーセンターを設置し、呼吸器・感染症内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科の各診療科が垣根を越えてよりよい治療を提供するよう取り組んでいます。

診療は原則事前予約制です。受診をご希望の方はかかりつけ医にご相談いただき、診療予約をお願いいたします。

### ■メール相談も受け付けています

アレルギーセンターでは、診療・診断だけではなくアレルギーでお悩みの方やご家族の方、保育・学校関係者の方からのメール相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

メールアドレス alle-yu@yamaguchi-u.ac.jp

#### 必要事項

- 相談者さんについて(氏名、年齢、性別、患者さんとの関係)
  - 患者さんについて(氏名、年齢、性別) ●症状 ●居住地域 ●具体的な相談内容
- ※個人情報第3者に提供することはありません。

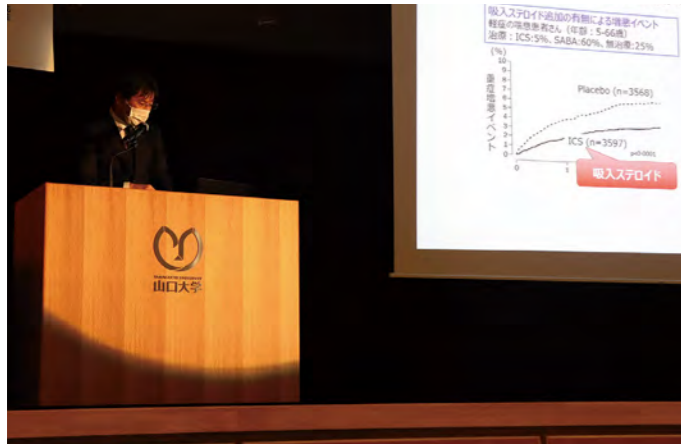
#### 注意事項

- お返事には2週間程度を要します。(短時間に対応が必要な緊急事態についての相談への対応は困難です)
- 患者さん個人の診断をどうするかなどについては、かかりつけ医に患者さんが十分相談することを原則としており、今回の相談事業の対象としておりません。



山路医師は、最新の喘息治療についてわかりやすく紹介しました。よく知られているアレルギー疾患である喘息では、以前は多くの患者さんが亡くなっていました。ステロイド吸入薬の普及によって徐々にその数は減少しています。アトピー性皮膚炎も対処方法が確立されていることが考えられるた

め減少傾向にあり、このことから、疾患に対する対処方法を確立することができれば、患者さんを徐々に減らすことができていくことがわかりました。しかし、現在、アレルギー性鼻炎やアレルギー性結膜炎、スギ花粉を起因としたスギ花粉症は、増加傾向にあり深刻な問題となっています。原因としては、ここ



山口大学医学部附属病院 呼吸器・感染症内科 山路義和医師



まかたこどもアレルギークリニック 真方浩行院長

# 全国初！「山口大学×宇部市」ひきこもり支援体制充実へ

## 山口大学医学部に「SDS支援システム開発講座」を設置



この度、山口大学は宇部市と連携して地域の課題を解決するために、「山口大学社会連携講座」の制度により、医学部に「SDS支援システム開発講座」を設置しました。

現在、ひきこもり者は、約115・4万人と推計（2019年内閣府調査）され、その長期化と親の高年齢化が課題になっていきます。80代になってもお金の年金で50代の子どもの面倒を顧みなくてはならないといった、いわゆる「8050問題」が深刻化しています。宇部市において、ひきこもり者は1600人を超えていると思われま。しかし、「ひきこもり」に対する誤解や偏った知識によって相談がでずに孤立している家族の存在、また仮に相談窓口にたどり着いたとしても支援者の理解不足からたらい回しにされ、適切な

支援が受けられないといった実態も明らかになっていきます。

SDSは、Social Distancing Syndrome（社会的距離症候群）の略で、「さまざまな要因によって、社会や人と一時的に距離を取った結果、徐々に社会とのつながりがなくなり、家族以外の人、または家族とのコミュニケーションの機会が減ってしまった状態である。さらに、この状態が長期化する。ことにより自尊感情が低下し、社会参加が難しくなった状態である」と山根教授は定義しています。ひきこもりが長期化することによって多くの人が「うつ状態」「昼夜逆転」「自己否定」「自尊心の低下」「自己効力感低下」「意欲低下」「感情コントロール低下」「対人恐怖」「家庭内暴力」「強迫症状」「寡黙」などの症状を体験する特徴があり、このよう

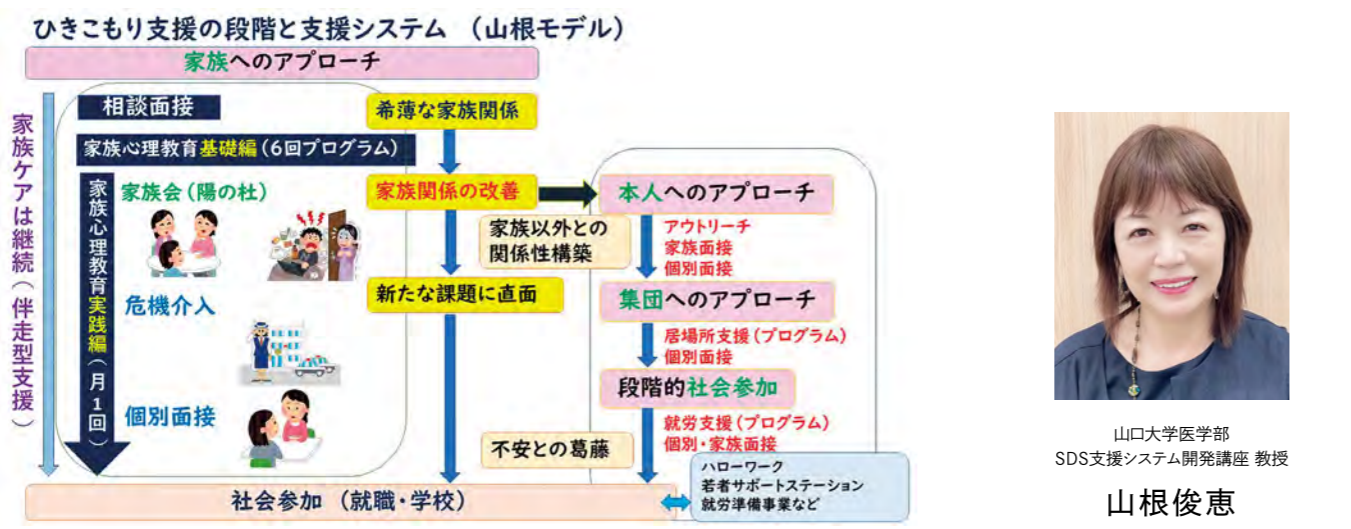
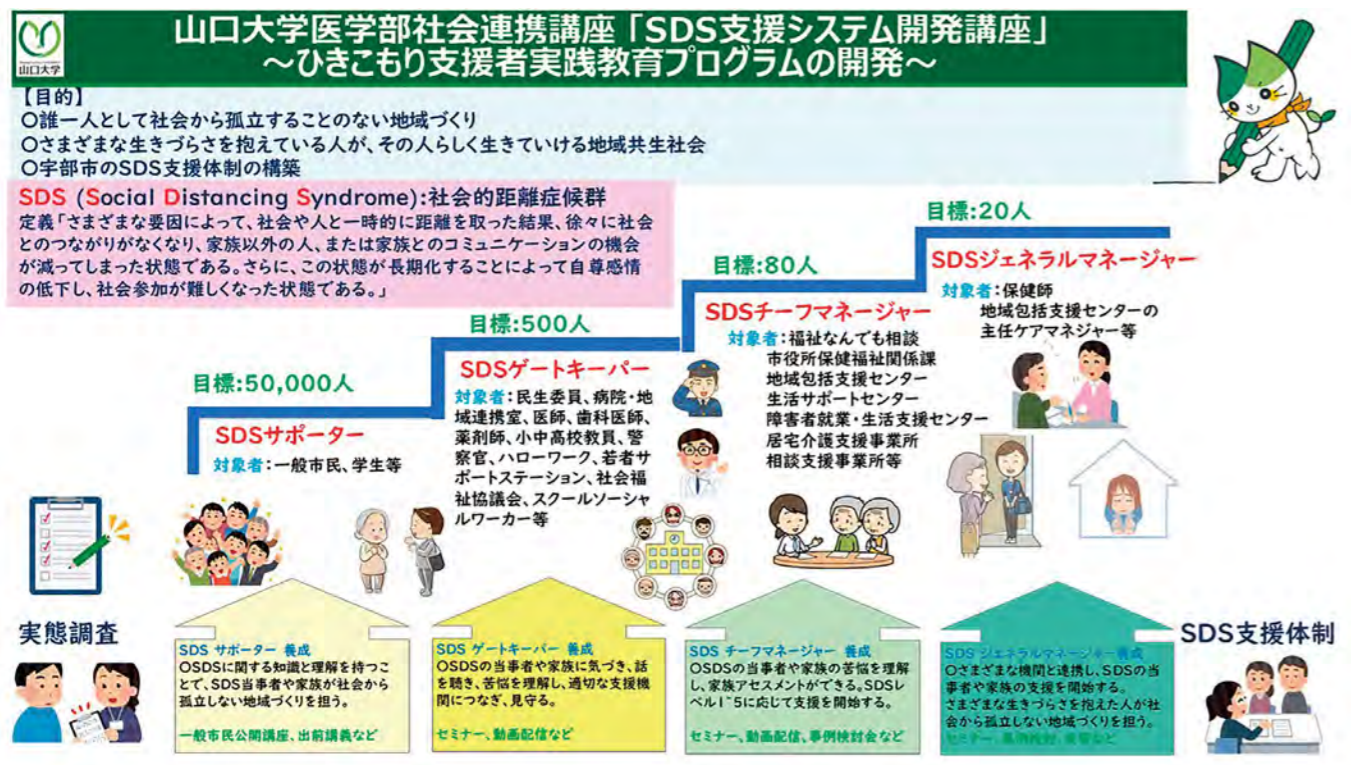
な症状は、個人の生きづらさや家族とのコミュニケーションも少なからず影響しています。

今後、「ひきこもり」に代わる用語として「SDS」を使用することで、多くの方に正しい知識を持つてもらい、早い段階で適切な支援が受けられるように理解を深めていきたいと思います。本講座では、宇部市のひきこもりに関わる支援者の人材育成とひきこもり支援体制の充実を図ることによって、誰一人として孤立することのない地域づくりを目指します。

【概要】  
社会連携講座 SDS支援システム開発講座（Developing Support System for Social Distancing Syndrome）  
●内容：宇部市におけるひきこもり支援の

実態を把握し、宇部市のひきこもりに関わる支援者の人材育成とひきこもり支援体制の充実を図ります。具体的には下記のとおり実践します。

- (1) 在宅支援者が、支援が困難と感じる要因について調査研究を行います。
- (2) 支援者を「SDSサポーター」「SDSゲートキーパー」「SDSチーフマネージャー」「SDSジェネラルマネージャー」として養成します。
- (3) 教材として、「一般市民向けのリーフレット」「各支援者向けのテキスト」「動画」などを作成します。
- (4) 事例検討会等を重ね、「宇部市SDS支援システム」を構築していきます。
- 期待される効果：宇部市及び同様の課題を持つ山口県内のひきこもり支援体制の充実（宇部市モデルの拡大）に貢献します。
- 講座設置期間：令和4年7月1日～



山口大学医学部  
SDS支援システム開発講座 教授  
山根俊恵

### 市民公開講座開催

11月5日（土）、宇部市との共催により市民公開講座『誰もがなりうる「ひきこもり」の正しい知識—SDS宇部モデルの構築に向けて—』を開催しました。

野垣副学部長、篠崎宇部市長の挨拶の後、SDS支援システム開発講座の山根俊恵教授が、「誰一人として社会から孤立することのない地域づくり・さまざまな生きづらさを抱えている人が、その人らしく生きていける地域共生社会・宇部市のSDS支援体制の構築」といった本講座の趣旨や目的について講演を行いました。

続いて、元当事者とひきこもりの子を持つご家族の方とのパネルディスカッションが行われ、体験談を含め様々なお話しがありました。



Topic

「第5回県知事激励会・夏休み地域医療見学実習 in やまぐち」開催



令和4年9月22日（木）に、山口大学医学部医学科1年の特別枠（地域医療再生枠・緊急医師確保対策枠）入学学生および特定診療科枠修学資金貸与学生を対象として、山口県知事激励会と地域医療見学実習を行いました。

本企画は、山口県修学資金貸与学生に対するサポートの一環として実施し、学生が将来山口県の地域医療へ貢献するという決意を表明するとともに、県内の医療施設の見学を行うことで地域医療の現場を学び地域医療マインドを醸成することを目的としています。コロナ禍のために中止されていた病院見学実習が、今年度は済生会豊浦病院にご協力いただき、感染症対策を万全に行い2年ぶりに実現しました。

県知事激励会では、篠田医学部長の挨拶の後、本学医学科1年の池田昌平さん、吉田名那さんが、山口に対する思いと支援に対する感謝を込めた決意表明を行いました。その後、村岡副政知事より激励の言葉をいただき、学生



一人ひとりに対して医師を志した理由や学生生活の様子等を尋ねるなど和やかに歓談しました。

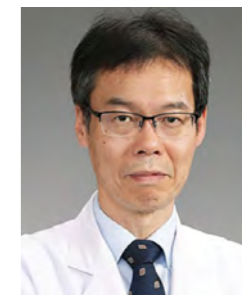
済生会豊浦病院では、中司院長をはじめ、外科の藤本先生、看護部、検査部、放射線部のスタッフの方々のご厚意により、病棟見学、検査部実習、放射線部実習、外来での外科実習が企画され、各部署でわかりやすく丁寧に指導して

いただきました。スタッフの方々の「医師になったらぜひ豊浦で一緒に働きましょう」という熱い想いが学生にも伝わり、学生にとっても非常に充実した一日となりました。この経験により学生一人ひとりの山口の地域医療に対する思いや学修意欲がさらに高まり大変良い機会となりました。

Greeting

令和4年8月1日付けで、泌尿器科学講座教授を拝命いたしました白石晃司（しらいしこうじ）と申します。新任のごあいさつを申し上げます。

私は萩市の出身で平成元年に県立萩高校を、平成7年に山口大学を卒業しました。在学中に精子形成の神秘にとりつかれ、生殖医療の発展に貢献したいと思い、泌尿器科学講座に入局しました。平成13年に精子形成におけるアポトーシスに関する研究にて医学博士を取得し、平成16年から3年間アイオワ大学薬理学にて生殖内分泌の基礎研究に従事しました。帰国後、平成23年に治療が不可能とされていた非閉塞性無精子症に対する「サルベージ内分泌療法併用顕微鏡下精巣内精子採取術」を報告し、同疾患からの世界初の精子採取に成功しました。この報告により国内外からの男性不妊患者さんの受診の爆発的な増加につながり、同時に全国規模の医師主導試験をリードして参りました。



山口大学大学院 医学系研究科 泌尿器科学講座 教授

白石晃司

教授就任のごあいさつ

この四半世紀で泌尿器科のメジャーな癌関連の手術は開腹から腹腔鏡、そしてロボット支援手術へと劇的に変化してきました。私自身も含め多くの泌尿器科医の労力は、それらの新規技術の習得に明け暮れていました。山口大学でロボット支援手術が開始されて、ちょうど10年を迎えました。前立腺癌、腎癌および膀胱癌における制癌性は、全国標準以上であり、次の癌治療に求められるものは、患者さんのQOLの向上と考えています。多くの大学病院が癌診療のみで終始されている状況の中、山口大学では血管外科的要素を含んだ腎移植、マイクロサージャリーが中心の男性不妊手術、繊細な技術が要求される小児泌尿器科手術など、多種多様な手術を行っており、性機能障害や男性更年期障害などメンズヘルス診療も強化して参りました。これらの異なる分野の有機的な融合により、新規術式の開発や患者さんの新たな管理法が生まれ、これからは山口大学が本邦および世界の泌尿器科癌診療を牽引していけるよう情報発信を行っていきます。

山口および周辺地域の泌尿器科診療を統括する基幹病院として、多くの施設と密でスムーズな連携を図り、患者さんに満足いただける診療が提供できるよう、医局員全員で最大限尽力を惜しまない所存です。皆さま、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

Topic

シンガポール日本人学校の職場体験プログラムに参加



令和4年11月2日（水）、看護部助産師の小野さんが、シンガポール日本人学校が実施する職場体験プログラムのオンラインインタビューを受けました。

このプログラムは、生徒たちが事業所などで実際に働く人の声を聞くことで、「働くことの意味」を真剣に考えるきっかけをつくることを目的に、同校が毎年実施しています。本院は今年で3回目の参加となり、オンラインでシンガポール日本人学校の生徒さんからの様々な質問に答えました。

Topic

## 新たにホスピタルアートを設置



現在再整備事業を行っているB棟とC棟の壁面に、山口大学教育学部美術教育選修3、4年生11名の絵画作品を設置しました。工事のための間仕切り等で大変ご不便をおかけしていますが、患者さんに少しでも心安らく空間となるように各所に展示しています。

次号の広報誌でくわしい作品紹介をする予定です。ぜひご覧ください。

Topic

## 令和4年度 看護師特定行為研修開講式開催

令和4年10月7日（金）、令和4年度看護師特定行為研修開講式を行いました。

特定行為とは、所定の研修を修了した看護師が、事前に定められた手順書に従い、医師の判断を待つことなく看護師の判断で一定の診療補助を実施することです。本院は、令和2年2月に厚生労働省から特定行為指定研修機関として指定を受けています。

開講式では、研修を開始する4名の研修生が、鶴田研修管理委員長から通知書を受け取り、研修に向けての決意を新たにしました。

研修生は、令和4年10月から令和5年9月までの期間において研修を受講し、知識・技術を身に付けることとしています。研修後は、特定看護師として活躍が期待されます。



YouTube山口大学病院チャンネル  
診療紹介や医療情報を配信中!!



企画発行 | 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係  
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007  
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>  
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>